

10 人に一人が 80 歳以上の時代

～国連の 2002 年人口推計～

国連の人口推計が改定された。2050 年の世界人口は中位推計で 89 億人と推計され、インドの人口は 5 億人増の 15 億人となり、中国の 14 億人を抜く。一方、米国などを除く殆どの先進国で人口が減少し、最大の減少国ロシアでは現在の 1.45 億人が 1.01 億人にまで減少する。また、先進国・途上国を問わず、世界的に長寿化が進み、世界の平均年齢は現在の 26.4 歳から 36.8 歳に高まり、80 歳以上人口比率が 10%を超える国は 21 カ国に及び、日本では 100 人に一人が 100 歳を超えると見込まれる。世界レベルでも一国レベルでも、政治・社会・経済・文化の幅広い面で現在とは全く別の世界が出現するとみられる。

1. 2050 年の世界人口は 89 億人

2 月末に公表された国連の 2002 年人口推計によれば、2000 年に 61 億人であった世界の人口は、2050 年には 89 億人（中位推計）に達するとしている（表 1）。世界人口は 1950 年には 25 億人であったので、過去 50 年間に 2.4 倍に増えたが、今後 50 年間では 1.5 倍増にとどまることになる。絶対数でも、過去 50 年間の 38 億人増に対して、今後 50 年間では 26 億人増と、増加スピードが鈍化するとみられる。背景には先進国・途上国を問わず、合計特殊出生率が世界的に低下しているという状況がある。加えてエイズによる死亡率の上昇などもあり、前回の 2000 年推計の 2050 年時点中位推計 93 億人と較べても 4 億人の減少となった。

表1 2050年の世界の人口推計

（単位：百万人）

	1950	2000	2003	2050年の推計人口		
				低位	中位	高位
世界計	2519	6071	6301	7409	8919	10633
先進国	813	1194	1203	1084	1220	1370
途上国	1706	4877	5098	6325	7699	9263
うち最貧国	200	668	718	1417	1675	1960
その他途上国	1505	4209	4380	4908	6025	7303
アフリカ	221	796	851	1516	1803	2122
アジア	1398	3680	3823	4274	5222	6318
ラテンアメリカ	167	520	543	623	768	924
欧州	547	728	726	565	632	705
北米	172	316	326	391	448	512
オセアニア	13	31	32	40	46	52

表2 増加人口数トップ10カ国

（単位：千人）

国別には、今後 50 年間の増加人口数が最大のインドでは 515 百万人増加し、以下パキスタン 206 百万人増、ナイジェリア 144 百万人増、米国 124 百万人増、中国 120 百万人増と続いている（表 2）。

		1950	2000	2050	00⇒50
1	インド	357561	1016938	1531438	514500
2	パキスタン	39659	142654	348700	206046
3	ナイジェリア	29790	114746	258478	143732
4	米国	157813	285003	408695	123692
5	中国	554760	1275215	1395182	119967
6	バングラデシュ	41783	137952	254599	116647
7	エチオピア	18434	65590	170987	105397
8	コンゴ	12184	48571	151644	103073
9	インドネシア	79538	211559	293797	82238
10	ブラジル	53975	171796	233140	61344

一方、減少人口数が最も大きいロシアでは、現在 145 百万人の人口が 1.01 百万人へ、44 百万人減少する。以下、ウクライナ 18 百万人減、日本 17 百万人減、イタリア 13 百万人減、ポーランド 6 百万人減と続いている。減少率では更に激しい状況となっており、バルト 3 国のエストニアでは 137 万人から 66 万人に 51.9%の減少、ラトビアでも 237 万人から 133 万人に 43.9%の減少などとなっている（表 3）。

表3 減少人口数トップ10 カ国

(単位:千人)

		2000	2050	減少数	減少率、%
1	ロシア	145612	101456	-44156	-30.3
2	ウクライナ	49688	31749	-17939	-36.1
3	日本	127034	109722	-17312	-13.6
4	イタリア	57536	44875	-12661	-22
5	ポーランド	38671	33004	-5668	-14.7
6	ルーマニア	22480	18063	-4417	-19.6
7	南アフリカ	44000	40243	-3757	-8.5
8	スペイン	40752	37336	-3416	-8.4
9	ドイツ	82282	79145	-3137	-3.8
10	ブルガリア	8099	5255	-2843	-35.1

2. 低下し続ける合計特殊出生率

将来人口推計の基礎となる合計特殊出生率については、1995～2000 年現在で先進国（欧州・北米・日本・豪州・ニュージーランド）平均が 1.58 人、途上国平均が 3.11 人、世界平均が 2.83 人となっている（表 4）。

表4 合計特殊出生率の推計

(人)

	1995-2000	2045-2050		
		低位	中位	高位
世界計	2.83	1.54	2.02	2.50
先進国	1.58	1.35	1.85	2.35
途上国	3.11	1.56	2.04	2.52
うち最貧国	5.46	2.00	2.47	2.95
その他途上国	2.79	1.40	1.90	2.39

2002 年推計の中位推計では、先進国は今後やや回復するが、途上国は低下し続けて、2045～2050 年には世界平均で 2.02 人になるという前提に立っている。合計特殊出生率の予測次第で、2050 年の推計人口は低位推計の 74 億人から高位推計の 106 億人まで大幅に乖離するので、超長期の人口推計は幅を持ってみざるを得ない。

なお、1995～2000 年時点で合計特殊出生率が人口置き換えレベル（長期的に人口を維持できる水準）の 2.1 人を切る国は 59 カ国、2.1 人を超える国は 133 カ国となっており、先進国 45 カ国のうちアルバニアを除く 44 カ国が 2.1 人を切っている。韓国 1.51 人、中国 1.8 人、タイ 1.95 人などでも 2.1 人を切っており、米国も 2.05 人と僅かに 2.1 人を切っている。なお、95～2000 年現在で合計特殊出生率が低い国を挙げると、香港の 1.10 人を筆頭に、ブルガリア、マカオ、ラトビア、チェコ、スペインが 1.1 人台で続いている、日本の 1.39 人を大幅に下回っている（表 5）。

表5 合計特殊出生率低位国(95-00年)

(人)

1	香港	1.10
2	ブルガリア	1.14
3	マカオ	1.15
4	ラトビア	1.17
5	チェコ	1.18
6	スペイン	1.19
7	イタリア	1.21
8	スロベニア	1.25
9	ロシア	1.25
10	ウクライナ	1.25

3. 世界的に進む長寿化

合計特殊出生率の低下が世界的に進むと見込まれている割には、人口増加ペースは比較

の高い水準を維持すると予測されている。背景には、世界的な長寿化の進展がある。現在の世界の平均寿命（ゼロ歳児が生きる年数）は 64.6 歳であるが、2050 年には 74.3 歳に延びる。先進国では既に長命化が進んでいるので今後の伸びは 6.8 歳と比較的小さいが、途上国では 10.6 歳、とりわけ最貧国では 17.7 歳も長寿化すると見込まれている（表 6）。

国別の平均寿命では現在も 50 年後も日本が世界一を維持すると見込まれている。日本の平均寿命は現在の 81.6 歳から 2050 年には 88.1 歳に伸び、2 位との差は現在の 1.5 歳から 3.3 歳に 2 倍に広がる（表 7）。

長寿化に伴って世界の平均年齢も急速に高まるとみられている。2000 年現在の世界の平均年齢（中位値）は 26.4 歳で、50 年前の 23.6 歳に較べると 2.8 歳延びているが、2050 年には更に 10 歳以上延びて 36.8 歳に達すると見込まれている。特に先進国の平均年齢は 45.2 歳にまで高まる（表 8）。

国別には、ここでも日本が世界一で、日本人の平均年齢は現在の 41.3 歳から 50 年後には実に 53.2 歳に高まると見込まれている。日本以外でもスロベニア、ラトビアで 53 歳、イタリア、エストニア、シンガポールで 52 歳と高年齢化が進む（表 9）。

表 6 平均寿命の推計(歳)

	1995-2000	2045-2050
世界	64.6	74.3
先進国	74.8	81.6
途上国	62.5	73.1
うち最貧国	48.7	66.4
その他途上国	65.4	75.1

表 7 平均寿命の長い国ベスト10

(歳)

2000-2005			2045-2050		
1	日本	81.6	1	日本	88.1
2	スウェーデン	80.1	2	香港	84.8
3	香港	79.9	3	スウェーデン	84.6
4	アイスランド	79.8	4	マカオ	84.2
5	カナダ	79.3	5	スペイン	84.1
6	スペイン	79.3	6	フランス	84
7	オーストリア	79.2	7	ベルギー	83.8
8	イスラエル	79.2	8	ノルウェー	83.7
9	マルチニク	79.1	9	オーストラリア	83.7
10	スイス	79.1	10	ルクセンブルグ	83.7

表 8 平均年齢の推移(中位値、歳)

	1950	2000	2050
世界	23.6	26.4	36.8
先進国	28.6	37.3	45.2
途上国	21.3	24.1	35.7
うち最貧国	19.5	18.1	27.1

表 9 平均年齢の高い国トップ10

(歳)

2000			2050		
1	日本	41.3	1	日本	53.2
2	イタリア	40.2	2	スロベニア	53.1
3	スイス	40.2	3	ラトビア	53.0
4	ドイツ	39.9	4	イタリア	52.4
5	スウェーデン	39.6	5	エストニア	52.3
6	フィンランド	39.4	6	シンガポール	52.0
7	ブルガリア	39.1	7	スペイン	51.9
8	ベルギー	39.1	8	チェコ	51.7
9	ギリシャ	39.1	9	アルメニア	51.5
10	クロアチア	38.9	10	ギリシャ	51.3

4. 子供一人に 4 人の高齢者

2000 から 2050 年にかけての年齢階層別の人口動向とみると、0～14 歳人口（以下子供人口）はこの間の年平均増加率が世界全体で▲0.04%と、減少に向かうとみられている。先進国は勿論のこと、途上国全体でも子供の数が減少に向かう。逆に 60 歳以上人口の年平均

増加率は世界全体で +2.29%、中でも 80 歳以上人口では +3.39%と激増すると予測されている（表 10）。

その結果、世界人口に占める子供人口の比率は 2000 年

の 30.1%から 2050 年には 20.1%に急低下する。1950 年の子供人口比率は 34.0%であったので、過去 50 年間では 3.9%ポイントの低下であったものが、今後 50 年間では 10.0%ポイントもの低下が見込まれている。一方、60 歳以上人口の比率は 1950 年 8.0%、2000 年 10.0%であったものが、2050 年には 21.4%へ急増し、60 歳以上人口と子供人口のシェアが逆転すると予測されている。

なかでも先進国では激変が見込まれている。先進国の 1950 年の子供人口比率と 60 歳以上人口比率はそれぞれ 27.0%、12.0%であったが、2000 年には 18.0%、19.0%と逆転、更に 2050 年には 16.0%、32.0%と 60 歳以上人口比率が子供人口比率の 2 倍に達する。2050 年には日本、スロベニア、イタリア、スペインでは子供 1 人に対して 60 歳以上人口は 4 人の割合に達すると見込まれている（表 11）。

表11 年齢階層別人口構成の推移

(%)

	1950			2000			2050		
	0～14歳	15～59	60～	0～14	15～59	60～	0～14	15～59	60～
世界	34.0	58.0	8.0	30.1	59.9	10.0	20.1	58.5	21.4
先進国	27.0	39.0	12.0	18.0	63.0	19.0	16.0	52.0	32.0

絶対数でも、60 歳以上人口は 2000 年には世界全体で 606 百万人であったが、2050 年には 3 倍の 1900 百万人に達すると見込まれている。先進国で 232 百万人から 394 百万人への増加に対して、途上国では 375 百万人から 1500 百万人へと 4 倍に急増する見込みである。それにも増して 80 歳以上人口の増加率は激しい。世界全体では 80 歳以上人口は現在 69 百万人であるが、2050 年には 5.5 倍の 377 百万人に達する。全人口に占める割合も現在の 1.1%から 4.2%に高まる。国別にみると、現在の 80 歳以上人口比率はスウェーデンの 5.1%を筆頭に、デンマーク、ノルウェー、スイス、英国で 4%を超えているが、2050 年にはドイツ、フランス、イタリア、スペインなどの欧州勢を中心に、日本、韓国、シンガポールなどのアジア勢も加わって、実に 21 カ国で 10%を超えると予測されている。

更に 100 歳以上人口は、現在は世界全体で 167 千人に過ぎないが、2050 年には 20 倍

3300 千人に増加し、そのうち日本人が何と 3 分の 1 の 1016 千人を占める見込みとなっている。2050 年の日本人の実に 100 人に一人が 100 歳以上となる。なお、国立社会保障・人口問題研究所 2002 年 1 月「日本の将来推計人口」では 2050 年の 100 歳以上人口は 519 千人で、200 人に一人の割合とされている。

5 . 変わる経済・社会構造

こうした人口動態の変動は、世界レベルでも、一国レベルでも、政治・経済・社会・文化などの広範な分野で大きな変化をもたらすであろう。E U 委員会では、世界の G D P に占める E U のシェアは現在の 18% から 50 年後には 10% に低下する一方、米国のシェアは 23% から 26% へ上昇すると予想している。更に、人口増加国から人口減少国への移民の増加、年金を始めとする社会保障制度や雇用・労働慣行の変化、人口減少国での少子化対策へのより徹底した取り組みなどに伴う各種の変化などが生じるであろう。

(西都 : saito@sumitomotrust.co.jp)